

○それでは、改めて、朝の挨拶をしましょう。

わかたけっ子のみなさん、おはようございます。

○今日は7月2日。「7月の全校朝会」ということで、1学期にみなさんが登校する日を数えてみましたが、あとたったの12日しかありません。いよいよ、1学期のまとめの時期です。

○昨日は、6年生と一緒に、東京の方へ社会科見学に行ってきました。見学の態度や一生懸命学ぶ姿など、「立派な最高学年」に成長していることをたくさん感じられて、嬉しい1日となりました。

○思い起こせば、4月の始業式では、他の学年も含めて一人一人が目標をしっかり持ち、1学期がスタートしましたね。そして、皆さんはいろいろな場面でその目標に向かって頑張ってきたことと思います。「自分が成長できたことはどんなところなのか」「これからもっと頑張らなければならないことは何なのか」友達や先生方と、しっかり振り返り、まとめをしてほしいと思います。

○さて、今日は「七夕の願い事」の話をしたいと思います。来週の月曜日7月7日は「たなばた」です。七夕では笹の葉に、願い事を書いた短冊や、それに見立てた色紙（いろがみ）を吊るす風習があります。皆さんのおうちでも竹の飾りに短冊を飾ります、というご家庭もあるかもしれませんね。この七夕の由来や、どうして願い事をするようになったのか、などについて、少しお話ししたいと思います。

○「七夕は、1年に1回、織姫と彦星が天の川を渡って会うことができる日」というのを聞いたことがある人もいるでしょう。この二人が7月7日の「年に1回」しか会えないことには、ちゃんと理由があります。

○織姫とは、その名前の通り、秋の豊作を願う際に、神様が着る着物を織る女性のこと。天の神様は、一生懸命にはた織りをしていた織姫と、牛の世話をよくする牛飼いの彦星を結婚させました。しかし、働き者だった二人は、二人で過ごすことが楽しくて、仕事

もせずに遊ぶようになってしまいます。そこで怒った神様は、間に天の川を挟むことで二人を引き離してしまったのです。

○そんな織姫と彦星ですが、哀れに思った神様は、一生懸命に働いていれば七夕の日だけに二人が会えるように計らってくれました。二人が「年に1回」だけ天の川を渡って会えるようにしてくれたのです。そうして二人は、七夕の日逢うことを楽しみに、毎日真面目に仕事をするようになりました。これが、織姫と彦星にまつわるお話です。

○では、なぜ七夕には「お願い事」をするのでしょうか。このことには、「乞巧奠(きこうでん)」という中国の風習が関係しています。乞巧奠とは、七夕の登場人物、織姫にあやかり、はた織りや裁縫の上達を願う儀式を指します。そして、この儀式が、現在の七夕の「願い事をする風習」につながっていると考えられています。

○また、竹に飾るのかと言うと、竹は成長がとても早いことから、生命力の象徴であり、神聖なものとして扱われていたからと言われている。そこで、七夕では笹の葉を使って、そこに飾り付けをするようになったそうです。

○このような由来から、七夕にする願い事では「上達」や「生命力」に関する願いが叶いやすいと言われている。例えば、「上達」に関してでは、「ピアノがうまくなりますように」「野球でホームランが打てますように」「字が上手になりますように」など、「生命力」に関して、では「家族みんなが健康で、幸せに暮らせますように」などですね。

○もちろん、願い事は願っているだけで叶うはずがありません。「ピアノが上達したいなら、毎日練習する」「ホームランが打ちたいなら、毎日素振りをする」「健康でいたいなら、早寝早起き朝ごはんを実践する」など、「願い事」と「それを叶えるために自分は何をすべきか」は、本来同時にあるべきものです。

○皆さん、もしも七夕を機に「願い事」を書いたり、言ったりすることがあるのであれば、「○○ができるようになりますように」という願いとセットで、「そのためには自分は○○をがんばります」と誓いを立てるようにしてみましょう。そうすれば、きっと天の神様や、織姫、彦星がみんなの願いを叶えてくれますよ。

○それでは、残り少ない1学期、みんなで頑張りましょう。お話を終わりにします。